

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870600750
法人名	株式会社ジェイコム
事業所名	グループホーム丹原の郷
所在地	愛媛県西条市丹原町池田1267-1
自己評価作成日	平成24年6月8日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ホーム内の行事のみならず、外出の機会を多く作り、農園に柿、いちご、すもも、ぶどう狩りに出かけ、季節感を味わって頂いたり、地域の行事にも参加しており、丹原町商店街の七夕まつりに七夕飾りを作り協賛している。日常生活では、自分で出来ることは、自分でしていただき、出来ない所を、支援している。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年6月22日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●お天気のいい日は、敷地内で日向ぼっこをされたり、事業所周辺を散歩されている。事業所では、ユニット毎に、「みんなで外出する」ことに取り組んでおられ、少し遠出をして、市外に梅を見に行かれたり、お寺の桜や藤の花の見物、紅葉狩り等、四季折々のお花を見に出かけられている。時には、仕出し弁当を持ってぶどう狩りや柿狩り等にも出かけて、季節の果物を味わう機会も作っておられる。朝食と昼食を兼ねて、モーニングサービスに行かれたり、ファミリーレストランや回転寿司で外食することもある。</p> <p>●1月に地域で行われている「どうさん」の行事には、地域の方が「今年もどうぞ」と誘ってくださり、18名ほどの利用者が参加された。事業所では、甘酒を用意して、地域の方に振る舞ったり、又、利用者のために地域の方達がお菓子を用意してくださっていた。利用者は、お知り合いの方とお話をする等、楽しみに地域行事に参加されている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. <b>家族の2/3くらい</b> 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. <b>たまに</b> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. <b>少しずつ増えている</b> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. <b>職員の2/3くらいが</b> 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. <b>家族等の2/3くらいが</b> 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム丹原の郷

(ユニット名) 上町

記入者(管理者)  
氏名 松木祐子

評価完了日 24年6月8日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホーム開設時の理念をわかりやすい文章にて各ユニットに貼り出している。職員の名札の裏にもいつでも確認できるようにしている。	
			(外部評価) 事業所開設以来、法人の運営理念5項目を事業所の理念に揚げて、理念をより具体的に示しておられ、「一人一人が穏やかに生き生きと暮らせるように援助する」「地域の行事に参加しましょう」と、各ユニットの入り口や居間に掲示されている。5月に管理者の交代があり、管理者は、「認知症があっても、いつまでも生き生きと、その人らしく暮らせるよう、少しお手伝いをさせていただきたい」と話されていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 商店街で行われている七夕祭りに、毎年七夕飾りをデイサービスと協力して制作し、出品している。展示期間には、七夕見学に出かけている。秋祭りには、お神輿や獅子舞が来所してくれる。1月には『とうどさん』があり、参加し、地域との交流を持つように、努めている。	
			(外部評価) 福祉体験の授業で中学生が6名来てくれ、利用者と一緒にレクリエーションやお話をして過ごされた。1月に地域で行われている「とうどさん」の行事には、地域の方が「今年もどうぞ」と誘ってくださり、18名ほどの利用者が参加された。事業所では、甘酒を用意して、地域の方に振る舞ったり、又、利用者のために地域の方達がお菓子を用意してくださっていた。利用者は、お知り合いの方とお話をする等、楽しみに地域行事に参加されている。地域の方達とのふれあいを目的に、職員は、お菓子やパンを手作りして事業所で「喫茶会」を行うことを企画され、運営推進会議時等に案内されたが、地域の方達のご都合もあり、参加いただけるまでに至らなかったようだ。管理者は、今後も、「地域の方にちょっと立ち寄っていただけるような機会を作っていきたい」と話しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) デイサービス事業も併設されており、グループホーム内でもデイサービス利用者を受け入れている。地域の高齢者の相談窓口になっている。民生委員の方も見学や相談に来られている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の代表、家族の方、民生委員、市役所、相談員の方などに参加頂き、管理者、各ユニットスタッフがサービスの内容や行事について、写真や資料を使い報告し、意見を聞いている。</p> <p>(外部評価) 会議は、事業所で議題を決めて、地域の方やすべてのご家族に案内されている。5月に開催した会議時には、「介護報酬の改定について」事業所から説明された。参加者からは、「どのくらいの負担増になるのか」「待機者はどのくらいいるか」等の質問が出され、管理者が答えられた。利用者も各ユニットから一名ずつ会議に参加されており、「静かでいいところです」「おいしい物を食べたいです」等、ホームでの暮らしについて意見や感想、希望等話してくださり、会議は、利用者の声を地域の方に聞いていただく場にもなっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 主に管理者が行なっている。花見、敬老会などの行事で案内を出し、足を運んで頂ける機会を設けている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、地域の方の参加もあることを踏まえて、地域包括支援センターの担当者の方から、「感染症」や振込め詐欺等の、「高齢者の被害」等について、お話していただくこともある。毎月、2名の介護相談員の訪問があり、運営推進会議時にも参加してくださり、「職員、利用者の方ともに明るくて、パワーをもらいます」等、事業所についての感想を話してくださっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ユニット会や日々の申し送りにおいて、ケアを振り返り、身体拘束が行われていないか点検をしている。身体拘束は行っていない。</p> <p>(外部評価) 日中は、玄関には施錠せず、「家に帰りたい」と外に出られる利用者の方には、ご本人が納得するまで職員も一緒に歩いておられる。ベッドから転落の危険がある方は、低床ベッドを使用されていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  施設内での勉強会や外部の研修に参加し、学んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  権利擁護についての研修に参加している。必要な人への対応は管理者が行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時に管理者が説明し承諾頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  運営推進会議や面会時に意見要望を聞き、参考にさせて頂いたり、改善すべき点は速やかに行っている。  (外部評価) 運営推進会議や家族会の機会に、事業所サービスについて意見や要望を聞くようにされており、現在、ご家族から感謝の言葉が多く聞かれている。又、「このままでいい」と言われるご家族もあるようだ。ご家族へは毎月、写真を多く採り入れた事業所通信と、ご本人の暮らしぶり等を書いた「日常生活報告書」を送付されている。5月に、管理者が交代した際には、毎月送付する書類とともに、あいさつの文書を同封された。事業所では、利用者に負担していただく食材費を値上げしたこともあり、「事業所で利用者が普段食べている食事をご家族にも召し上がっていただき、感想をうかがうような機会を作りたい」と考えておられた。	管理者は、「事業所のサービスについて、たくさん人の感想や意見をお聞きしたい」という気持ちを持っておられる。今後さらに、食事・入浴・排せつ、又、終末期の支援等、事業所からの問いかけ等も工夫しながら、より具体的な要望や意見を引き出せるような取り組みを工夫してみしてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会や勉強会を開き、個々の意見を言える場を設けている。また、個別に話す機会を設けて意見や要望を聞いている。	
			(外部評価) 職員一人ひとりが、年度初めに「待つ介護を心がける」等の目標を立て、年2回、管理者は職員と面談して、目標の達成状況を話し合ったり、アドバイスをされている。又、事業所では、「行事」や「園芸」等の委員会を設置しておられ、職員は、それぞれの委員会に所属して、責任を持って活動できるような仕組みを作っておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者を通して職員の意見を聞き、職場の条件や環境の整備に努めている。年1回会社の総会が開催されてお、新たに資格を取得した職員を表彰し、奨励金をもらえたりと励みになっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内研修または、外部での研修会の機会はある。掲示板に研修の情報を貼り出している。研修を受けた人は報告書を書き、資料等は全員が見ることができるようにしている。また、勉強会で発表している。段階に応じて資料作りしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域のグループホーム連絡協議会に参加して、情報交換している。同一法人内のグループホームや施設についての情報は比較的入りやすい。月1回、主任・副主任会を開き月毎にテーマを決め、公表したり、施設内を見学して良い点、悪い点や帳票類などにも視点をおき、良い物を取り入れるようにしている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に同一施設内のデイサービスやショートステイを利用して頂き、情報収集などを行う場合もあるが、通常は事前面接などで情報収集している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の申込時より、不安に思っていること、困っていることなどの相談を受け、個々に応じた対応に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時本人や家族さんの思いや状況を確認し改善に向けた支援の提案や相談、援助を繰り返して行い、信頼関係築いている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており平素から利用者に教えてもらえる場面が多く持てるように工夫している。特に輝いて暮らされていた時の事を話題に持ちだし生き生きと話してもらっている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は家族の思い出に寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気付きの情報を共用している。行事などの写真を見て頂いてきっかけを作り話す機会を設けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者が家族からの独立した状態にならないようホームで行う行事等に出来るだけご家族や友人に参加して頂けるようにしている。 (外部評価) 利用者は、子どもの頃から事業所の所在する地域に住んでおられる方が多く、「とうどさん」や「七夕祭り」等の馴染みの行事に楽しみに参加されている。「とうどさん」で玉ぐしを奉納させていただいた利用者もいる。ご家族が来られた際には、職員はお茶をお出して、利用者と一緒に過ごしていただけるよう気配りされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事やお茶の時は職員も一緒にテーブルを囲み、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。利用者同士で洗濯を干したり、たたんだりする中で、お互いに気遣う場面も見られる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後もご家族からの相談を受けることもあり、相談や支援に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向に添えるように職員で話し合ったり日々の中で利用者の思いをくみ取るよう努めている。些細な事も見逃さないようにし職員間で情報が共有できるよう記録や申し送りを行っている。 (外部評価) センター方式の「私の姿と気持ちシート」「できること・できないことシート」等を用いて、利用者の現状の把握に努めておられる。シートは、毎年更新されており、利用者個々の一年ごとの変化が分かるようになっている。又、日々の介護記録の内容について、ご本人の思いや希望につながるような言動には、赤線を引くようにされている。	職員は、今後、利用者個々の希望に沿って、お墓参りに出かけたり、自宅に戻ったり、入居前に利用していた美容室の利用等を支援していきたいと考えておられた。さらに、利用者一人ひとりが、より「生き生きと暮らせるように」、個々の生活のこだわりや好み、習慣等にも注目して、支援に採り入れていかれてほしい。利用者の暮らし方の希望をもとにして、利用者主体の生活を支えていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者自身の話や家族の面会時に知り得た情報を職員同士で共有できるように生活歴や状態像記入用紙に書き込んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活習慣や心理面での視点や出来ること出来ないことに注意し、全体の把握に努めている。出来ることに重点を置き、ケアを行うように努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング                      本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)                      日々の中で、利用者の要望などを把握し面会時にご家族に要望をお聞きし、3ヶ月おきに、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)                      利用者個々に、「家事仕事をする」等の「目標とする生活」を設定し、「運動・移動」「日常生活(家庭生活)」「意思疎通・コミュニケーション」「体調管理」「今後の生活について」と、5項目に分けて支援計画を立てて、目標の達成に向けて取り組まれている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映                      日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)                      個別にファイルを用意をして、体調不良、精神面等の変化を日々記録し職員全員が目を通して。毎月カンファレンスを開き記録を活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化                      本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      ショートステイや通所介護を行い、本人や家族の要望に沿ったサービスを行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働                      一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)                      歌や美容ボランティアの方の訪問が定期的にある。消防機関と協力して年2回、避難訓練を実施している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 定期的な受診には遠隔地以外は状態のわかる職員がお連れしたり、同行したり、家族と協力し合っている。グループ内の医療法人との連携が取れているので早急な対応が可能で適切な指示がもらえている。	
			(外部評価) 系列病院は、24時間対応が可能であり、緊急時は、すべての利用者を受け入れる体制となっている。歯科受診が必要になった場合は、職員が同行して診てもらえるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 体調が悪い利用者がいたり、異変に気付いた時は看護師に相談し指示を仰いでいる。施設の看護師や担当医師と連絡が取れる体制をとっている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。担当医や病院と連携し情報の交換や退院に向けての受け入れを行なっている。主に管理者が病院や家族と連携を取っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主に管理者が行なっている。早い段階から本人、家族、医療機関の医師と話し合い、意見を聞き連携を取っている。また体調に変化が見られた時など、すぐに対応して頂けるように医療機関とも連携を取っている。	
			(外部評価) 利用者の状態が悪化した場合は、「事業所で大切な命をあずかることはできない」という方針であり、入居説明時には、「事業所で終末期を支援することは難しい」ことを、ご家族に説明し、了承の上、入居いただくようになっている。利用者の身体に変化があったような場合は、早めにご家族と「今後のこと」について話し合うようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  勉強会を開き、対応等について勉強している。消防署協力のもと、救命救急や応急処置の講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  消防署指導のもと、避難訓練も実施している。近隣の会社や個人のお宅にも協力をお願いしている。  (外部評価) 4月に実施した避難訓練は、利用者全員が参加して、夜間1階ユニットの台所からの出火を想定して実施された。2階ユニットは外階段を使って避難する訓練を行われた。平日の日中に訓練を実施されたこともあって、地域の方の参加には至らなかったようだが、いざという時には、近所の方10軒ほどのお宅に「避難した利用者の見守り」に協力いただけるようお願いをされている。事業所では利用者、職員分の食糧として飲料水や缶詰のパン等を3日分備蓄されており、9月1日の防災の日新しいものと入れ替えておられる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  利用者個々の状態に合わせた声かけを心がけている。その都度、言葉かけや対応の仕方を見直したりしている。  (外部評価) 入居時に、ご家族の承諾を得て、事業所通信には、利用者の写真や実名を載せておられる。ポータブルトイレは、昼間は居室には置かず、片付けるようにされている。又、パッド等の排泄用品も居室に置かず、別の場所で保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  日常生活では、出来る限り、ご本人の希望を聞くようにし、判断できない方は表情などからくみ取り、対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 花ややさいなど好きな方には、一緒に育てる野菜の手伝いをしたり、それぞれの生活歴を大切にするような環境を整えるよう職員間で話し合いをしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えは本人の意志を優先し、自己決定がしにくい利用者に対しては、職員と一緒に考えている。散髪の希望があれば理美容師に依頼し、訪問してもらっている。又、きわ剃りのボランティアも利用している。他の利用者にもステキな着こなしは見て頂き言葉をもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各人の能力を評価し、調理や配膳など役割分担していただいている。それまで生活の中で培った知恵などを教えて頂いている。	
			(外部評価) 献立は、管理者が立てておられ、3ユニット同じ献立ではあるが、食材の買い出しや調理は各ユニットで行っておられる。ユニットによっては、調理専門の職員を配置しているユニットもある。事業所の畑で採れた野菜等も使用されており、調査訪問時には、「収穫したじゃがいもをどう調理するか」、利用者と職員と一緒に考えておられた。月に2回、昼食は、「リクエストメニュー」の日を作っておられ、ユニットごとに、利用者の希望をお聞きして、一緒に食事作りされている。利用者からは、お寿司や麺類の希望が多いようだ。職員も、利用者とテーブルをともにして、同じものを一緒に食べておられる。調査訪問時には、居間のテーブルで、にんじんを切る等、食事の下ごしらえを行う利用者の様子もみられた。又、茶碗、湯のみ、箸は、馴染みのものやお気に入りのものを個々に用意して使用されており、食後は、食器をかごに入れて、流し台まで下げる方もみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考えて献立を立てている。水分については摂取量を記入している。入浴前後、入眠前の水分補給も行っている。スタミン、ポカリスエット、ミルク、コーヒーなど味の違った物や気温も考慮して摂って頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。義歯の磨き残しがあれば、介助している。義歯については、就寝前にはずし、週二回洗浄剤を用いての洗浄を行なっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの力や排泄パターンを知り、職員全員で共有し、立った時等などにも、声掛けや誘導を行ったり、日中少しずつでも、布パンツを使用するよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 事業所では、「お手洗いにお連れする」ことを支援の基本とされている。入居時、紙パンツを使用されていた方も、排泄記録にて、排泄パターンの把握に取り組み、タイミングに合わせて声かけや誘導を行いトイレで排泄できるよう支援されて、布パンツで過ごせるよう状態が改善された利用者もいる。便秘気味の方には、朝食後ゆっくりトイレに座っていただくような習慣を作り、自然排便につながるよう取り組まれている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表について職員が把握している。緩化剤を使用している方もいる。薬に頼らず排便できるようにセンナ茶やヨーグルト等も摂取している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者個々に応じた誘い方をして入浴して頂いている。湯温は個々の好みに合わせている。</p> <p>(外部評価) 入浴は、午後から、利用者個々に一日おきに入れるよう支援されている。お風呂がお好きな方は、毎日入浴する方もある。石鎚ハイウェイオアシスの足湯に出かけることもあり、利用者は「気持ちいい」と喜ばれるようだ。事業所では、入居時、「浴槽をまたぐことができなくなると、湯船で温まることは難しい」ことを説明されている。現在、シャワー浴と足浴のみの対応となっている利用者の方もいるようだが、入浴については、利用者主体支援となっているか、ということを中心に職員で話し合い点検されたり、運営推進会議や家族会等でも意見や要望、希望を聞いてみてはどうだろうか。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 日中はソファや和室やリビングにてくつろげるようにしている。短時間居室にて休んで頂いている方もいる。就寝前暖かい飲み物を勧めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の薬表を一冊のファイルにまとめている。服薬時本人に手渡したり、口に入れるなど、きちんと出来ているか確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食材切り、洗濯物を干したり、たたんだり、掃除など出来ることをしている。季節により行事を楽しんで頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎朝天気の良い時には、スタッフ付き添いにてホーム周辺に散歩に出かけ、自然に触れ気分転換を図っている。季節の果物狩りや地域の七夕祭りや運動会などにも体調を考えながら出かけている。	
			(外部評価) お天気のいい日は、敷地内で日向ぼっこをされたり、事業所周辺を散歩されている。事業所では、ユニット毎に、「みんなで外出する」ことに取り組んでおられ、少し遠出をして、市外に梅を見に行かれたり、お寺の桜や藤の花の見物、紅葉狩り等、四季折々のお花を見に出かけられている。時には、仕出し弁当を持ってぶどう狩りや柿狩り等にも出かけて、季節の果物を味わう機会も作っておられる。朝食と昼食を兼ねて、モーニングサービスに行かれたり、ファミリーレストランや回転寿司で外食することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設内でお金を使うことはパン屋さんが来た時くらいであり、個別に必要な買い物も立替払いを行っている。個々の金銭管理能力に応じて援助しているが、小額のお金の入った財布を金庫で預かって買い物を行うときにも職員が見守り、援助している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は個々の能力に応じてかけて頂いたり、取次いだりしている。手紙が書ける方には、便箋やハガキを準備している。宛名書きは主文を職員が書き、絵を色付けしたり、ご自分の名前だけ書いて頂いたりしている。また、年賀状、暑中見舞いを出す支援も行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者手作りの四季折々の飾り付けや、目につくところへ花を生けている。和室があり、家庭的な雰囲気を楽しめるようにしている。西陽には気をつけて眩しいことのないようにしている。立てずで防いでいる。気温は内、外、午前、午後と測定し気をつけている。</p> <p>(外部評価) 事業所の建物を囲むように、花壇や鉢植えがあり、ゴールドクレストの緑に色とりどりの季節の花を組み合わせて植えておられ、職員が手入れ等をされている。敷地の一角にパラソルやベンチが設置されており、調査訪問時、帽子をかぶった数名の利用者が職員とベンチに座り、花や木を見ながら、歌を歌ったり、談笑したりされていた。1階フロアの窓からは、山々が一望でき、利用者が、「あの向こうの方に見えるのが石鎚山よ。今日ははっきり見えんねえ」と指をさして教えてくださった。畳スペースには、床の間があり、利用者が生けた盛り花が飾られてあった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) テレビ前や廊下にソファを置き思い思いに過ごして頂けるようにしている。和室に腰を掛けて並んで体操をしたり、歌ったり一人で静かにリハビリを兼ねたゲームを行ったりしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 自宅で使い慣れたタンスなどを持ってきて頂いている利用者もいる。壁にはボードを取り付けてあり、カレンダーや写真を貼るなどして心地よく過ごせるように努めている。</p> <p>(外部評価) タンスや鏡台を持って来られていたり、ご家族と一緒に撮った写真、いただいた年賀状、長寿の表彰状等を飾っている居室もみられた。観葉植物を飾り、水やり等の世話をされる方もいる。調査訪問時、鉢の中の土を触って、「今日はまだ水やらんでもええわ」と教えてくださった。6月に入り、日差しが強くなってきたことから、1階の居室の窓には日よけのすだれをかけておられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレを「便所」と表示してわかりやすいようにしている。本人や家族に了解を得て居室に名札を掲げて戸惑いを減らしている。トイレ内では、立ち上がりが自力で行えるようポールを備えて、よく利用して頂いている。</p>	